

# 日鉄住金工材が オブジェ設置

## きらめくハートに 天使のベトル

### インスタ映えを意識

上越市川原町の日鉄住金工材株式会社(石川昌 弘社長)はこのほど、同社敷地内に創業70周年を



設置された「ハートと雪の結晶のオブジェ」

記念しチタン製の「ハートと雪の結晶」のオブジェを設置した。記念写真スポットづくりに取り組む同社が、「インスタグラム」などインターネットのSNS上で見栄えのよい写真が撮影できる「インスタ映え」を意識して自社製作した。会社営業日の月曜から金曜の午前8時〜午後6時頃なら、誰でも自由に敷地内に入り、写真撮影が可能。夜にはライトアップもしている。

記念写真スポットは、今年6月に同社敷地内に完成した京都・伏見稻荷大社の千本鳥居を模した「百年継続祈願鳥居」に続く第2弾。今年4月にオブジェ担当の機器部の社員から地域をテーマにデザインを募集。寄せられた30点の中から部内で議論を重ね「ハートと雪の結晶」に決定し、製作作業を経て10月中旬に完成した。

オブジェは、光り輝くハート型のゴールドチタンにチタンの雪の結晶やハート型の枠を組み合わせた3層構造。大きさは縦61センチ、横76センチ、高さ1メートルの土台の上に設置している。正面から見ると、2つのハートの中にゴールドチタンに反射する雪の結晶が見え、前面に取り付けられた天使の像を

あしらったイタリア製の真ちゅうのペルは鳴らすことができる。土台には、市内在住のイラストレーター、ひぐちキミヨさんが描いた6人の子宝に恵まれた社員一家と直江津祇園祭の花火のイラストをパネルにし、貼り付けた。

製作作業では、ステンレスやチタンなどの各種特殊合金製造販売メーカーである同社が最も得意とする溶接技術を駆使。特に高度な技術を要するハート型の溶接は、新潟県溶接コンクールで優勝した社員が担当した。

オブジェの横の地面にも込められた。百年色付きの石を並べて自由に文字を描くこともできる。左は百年継続祈願鳥居



色付きの石を並べて自由に文字を描くこともできる。左は百年継続祈願鳥居

はステンレスの額縁に白い石を敷き詰め、写真撮り出しに残る写真を撮った影の際、用意してある色ほしい」と話している。